

## 2018 年度ロシア留学体験レポート

新潟国際情報大学  
国際文化学科 21017005  
2 年飯田聖羅

私は 4 カ月の留学生活で日本では経験できない数多くの体験をしてきた。その中で印象深いものを上げる。

まず、食文化である。肉と油ものを食べることのできない私にとって、日本と違う食文化の中での生活が私にとっての一番の懸念だった。実際ロシアのスーパーマーケットと呼ばれる場所では多種類の塊肉やパン、洋食向きの食材、調味料がほとんどだった。しかし価格は日本の三倍近くするものの日本の調味料が少し売られていたこともあり実家から送ってもらった食料品と野菜（ロシアでは生産物系の食材は非常に安く手に入る）で 4 カ月自炊することができた。

また、レストランで「ベジタリアンな人でも食べられる料理はありますか」と聞くと、肉を使用していない料理を出してくれるなどのサービスを受けることができた。例えば私が日本で「ベジタリアン」だと言っても「野菜が好きの人なんだな」というくらいの感想を持たれるだけだが、その言葉だけで肉を扱わない食事が用意されるのは多民族国家で様々な宗教を信仰している人たちが共存しているロシアのような国だからこそなのかもしれないと感じた。

次に寮での生活だ。ウラジオストク国立経済大学には数多くの留学生が各国から集まり勉学やスポーツに励んでいる。私たち日本人留学生たちの暮らした寮には韓国の学生たちも暮らしていて、中には彼らと同室の日本人も半分近くいた。少人数クラスの授業は韓国の子と一緒に授業が回を重ねるごとに韓国の学生たちと仲良く交流するようになり、今まで日本にいたころ持っていた韓国人に対するイメージは大きく変化した。「韓国人は自分勝手にマナーがよくない」と小さなころから大人たちから教えられてきたが実際私が友人になった韓国人たちはとても社交的で物怖じしない性格の子が多く、日本人よりも他国の人に対してとても友好的な人たちだった。留学に参加しなければ知ることのできなかつた事実だ。私はロシア語とロシアの文化を学ぶためにウラジオストクで暮らすことを決めた。韓国の文化や人を少しでも知ることができ、とても貴重な経験ができたと感じている。韓国人だけでなく、もちろん周りのロシア人にも恵まれた。ロシアの学生と先生は日本人の学生を街案内や観光名所に連れて行ってくれたり、遊びに連れて行ってくれたり、とても面倒見よく接してくれた。

寮での生活面で印象に残っていることは水環境と洗濯だ。洗濯機が少し古い型だったため洗濯物の色落ちや型崩れなどの傷みを考えて時には手洗いで洗濯する必要があった。水環境に関しては一番気を使って生活をした。私は肌が弱い体質と 6 回の脱色で髪が傷んでいたため極力シャワーの時間を短くして、衣類を着用する前に全身をクレンジング力のある水で拭き取り保湿するように工夫した。硬水地域で生活することは普段絶対ないので今回の経験や硬水について調べた時の知識を得られたことに感謝している。

記述したこと以外にも多くの経験を積みさせてもらい、この留学生活は語学以外でも成長したと感じることのできる有意義なものであった。